令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【片柳中学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 ・基礎・基本的な知識の習得 ・生徒自身による主体的な学習の確立 【指導上の課題】 ・講義形式等の一斉指導から、個別最適な学びへの移行	⇒	・漢字や計算における繰り返し学習の実施 ・スタディサプリへの取組や一部教科でのTTや少人数指導を通した、個別最適な学びの実施 【国語・数学の「知識・技能」において、R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より＋2pt】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 ・資料やデータ等を分析し考察する力や、物事に対する批判的思考力の向上 【指導上の課題】 ・生徒による自己決定の場面や、お互いの考えをアウトプットする機会の促進	⇒	・文章や資料、データ等を要約したり、物事を批判的に思考したりする学習活動の実施 ・生徒どうしで話し合う活動を通した、自分の考えを広げたり深めたりする学習活動の実施 【国語・数学の「思考・判断・表現」において、R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より＋1pt】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	○国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」における「表現の技法について理解しているかどうか」をみる問題に課題がみられた。どのような特徴をもつ表現の技法なのかを、名称と結び付ける学習活動が不十分だと考えられる。 ○数学では、「数と式」の領域における「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうか」をみる問題に課題がみられた。文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉えて説明したり、得られた結果やその過程から新たな関係を見いだしたりする、深い理解をともなった活動が不十分だと考えられる。
思考・判断・表現	○国語では、「書くこと」における「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうか」をみる問題に課題がみられた。自分で表現した文章や工夫を、相手に正確に伝える活動が不足していると考えられる。 ○数学では、「数と式」の領域における記述式の問題で、数学的な表現を用いて説明する問題に課題がみられた。 ○説明や証明等、記述式の問題において、国語と数学の両教科とも無解答率が高い。複数の資料を比較して判断した理由を説明したり、目的に応じて文章をまとめ表現したりするなどの活動が不十分だと考えられる。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	・毎日漢字練習の時間を設け、週に一回範囲を決めて小テストを行うことができた。また、授業の開始時に、計算小テストを実施することができた。 ・スタディサプリへの取組や、TTによる指導をしているが、より効果的な個別最適な学びになるよう取り組んでいく。	変更なし
思考・判断・表現	B	・単元ごとに「書く」活動を取り入れることはできたが、文章や資料、データ等を要約したり、物事を批判的に考えたりする学習活動は、さらに充実させていく必要がある。 ・生徒どうしで考えを確認し合ったり、計算方法を説明したりする活動が実施できた。	・よむよむワークシートを用いて、文章や資料、データ等を要約したり、物事を批判的に思考したりする学習活動を実施する。 ・生徒どうしで話し合う活動を通した、自分の考えを広げたり深めたりする学習活動を実施する。 【国語・数学の「思考・判断・表現」において、R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より＋1pt】

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語において、漢字の読み書きの内容の正答率が全体的に低く、「読む」「書く」の活動を行う必要がある。また、どの教科においても、既習事項の確認や、繰り返し学習をさせることにより、基礎・基本の定着を図っていく必要があると考える。また、単なる知識の理解と技能の習得で終わるのではなく、各教科・各単元の本質・概念における理解を大切にして、汎用的に利用できる知識・技能を習得できるよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	選択問題形式の問題における無解答率の割合は低い一方、記述問題形式の問題における誤答や無解答率の割合は、市の平均値と比べて高い傾向であった。資料やデータを読み取り要約し自分の言葉で説明する活動や、書かれている内容や意味を解釈し、自分なりに再定義して相手に伝える活動、また知識・技能で習得した概念を日常生活に生かす教科横断的な視点で問題解決の場面を多く設定することが必要だと考える。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	B	・授業において定期的な漢字テストや、毎時間の授業の始めに計算問題に取り組むことで、繰り返し学習する習慣をつけることができた。また、スタディサプリやドリルパークを活用することで、自由進度学習等個別最適な学習を実施することができた。 ・R6年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」における自校結果では、中1国語の異集団比較において＋1.9であった。
思考・判断・表現	B	・国語の授業において、文章を読み取り要約したり、自分で思考したりするよむよむワークシートを用いた学習活動を、複数回実施することができた。また、1つの教材についてグループで考察しまとめて発表するなど協働学習に取り組むことができた。 ・R6年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」における自校結果では、中1国語の異集団比較において＋1.3, 中2数学で＋0.5、中2数学の同集団比較において＋0.7であった。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	国語や数学における、基礎・基本の定着のための繰り返し学習は今後も継続し、家庭学習も含め、さらなる充実を目指す必要がある。しかし、理解したことを限られたものや問いにしか活用することができない傾向がある。次年度の改善策として、基本的な用語や考え方において深い意味理解や、汎用的な概念の習得に向けた授業改善を図ることが必要である。
思考・判断・表現	資料、データからの読み取りや問題文から考えられることをまとめるといった読解力や、自分なりに解釈し相手にわかりやすく説明する等の言語能力に課題がみられる。教科を横断する問いを意識的に授業へ取り入れ、未知の場面でも問題を解決できるように、文章や資料、データ等を要約したり、物事を批判的に思考、そして、協働して具体的な解決策を模索する学習活動を充実させていく。